

山形大学工学部 技術部職員 による

「身近な技術のはなし」(8)

技術部地域連携担当

村上 聡

2006年度から創めて8回目となる「身近な技術のはなし」(8)を12月21日(日)10:00~12:00、米沢市理科研修センターを会場に開催した。技術部職員が培ってきた技術の話を、一般市民向けに分かり易く紹介する企画であり、大学技術職員の一端を学外の方に知って戴き、地域との連携を図る機会づくりと技術職員自身の貢献度を高めるための自主研修でもある。今回は、堺三洋技術専門職員と大竹哲也技術専門職員

(共に計測技術室)がそれぞれ「国産紅茶と色」、「木質炭化物の利活用技術」の題で講演を行った。参加者数は一般市民と工学部関係者合わせて17名で、興味深い話の後は質疑応答が活発に行われ、地元マスメディアのNCVと米沢新聞社の取材もあった。今後は参加者を増やす工夫が期待される。毎回、共催及び後援いただいている米沢市教育委員会と学園都市推進協議会に厚く御礼申し上げます。

『国産紅茶と色』

堺 三洋 技術専門職員 (計測技術室)

国内産紅茶は和紅茶と称され香り高くマイルドな味わいで人気を高めつつある。特に沖縄県農業研究センター名護支所では高品質の和紅茶生産に取り組んでおり沖縄産紅茶の地域ブランド化をめざしている。また紅茶品質には水色、香り、味、有効成分等が重視される。筆者は茶葉の発酵を通じて紅茶の茶葉色あい変化や水色の変化を簡便な方法で分析を行い、国内産紅茶の高品質化のための新しい分析方法を検討している。講演では、国内産紅茶生産の情報や簡単な色合いの分析方法などを紹介した。



山形大学工学部 技術部職員 による
「身近な技術」のはなし

期日 平成26年12月21日(日) 10:00~12:00
会場 米沢市教育委員会 理科研修センター
(国純総合文化センター4階)
対象 小中学校教員 および 一般市民 (定員30名)

主催 山形大学工学部
共催 米沢市教育委員会
後援 学園都市推進協議会

お問い合わせ先/山形大学工学部 (技術部 大塚 16-20-226)

『木質炭化物の利活用技術』

大竹哲也 技術専門職員 (計測技術室・博士(工学))

木質炭化物(木炭)は、古くから燃料や吸着剤として利用されてきた。用途や目的により、多様な種類の木質炭化物が生産されていたが、これまでの経済環境の変化から製炭量は減少している。一方で戦後に植林された人工林の針葉樹類が収穫の時期を迎えている。しかし、生産コストが賄える建材用途だけでは消費しきれないため、新たな利用法の開発が求められている。講演では針葉樹の炭化物を原料に、燃焼特性や吸着特性をコントロールした炭化物、また金属との組み合わせによる新たな炭素材料開発について紹介した。